

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-179	A-154	21-013	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>			
Prevalence and sociodemographic factors associated with heavy drinking in Brazil: cross-sectional analyses of the National Health Survey ブラジルにおける大酒に関連する有病率と社会人口学的因子：国民健康調査の横断研究			
<b>執筆者</b>			
Ribeiro LS, Damacena GN, Szwarcwald CL.			
<b>掲載誌</b>			
Rev Bras Epidemiol. 2021 Aug 2;24:e210042. doi: 10.1590/1980-549720210042.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID</b>
飲酒、ライフスタイル、健康調査、ブラジル			34347000
<b>要旨</b>			
<p><b>目的：</b>本研究の目的は 2013 年と 2019 年版の 2 回にわたって実施された「国民健康調査 (PNS)」からのデータを用いて、ブラジル国民における大酒行動の特性を明らかにすることである。</p> <p><b>方法：</b>ブラジルの保健省と地理統計院が共同して実施した世帯調査である PNS から 18 歳以上の世帯における居住者に言及したデータを使用した横断研究である。単純無作為抽出された居住者に対してインタビューが実施され、サンプルサイズは 2013 年に 60,202 人、2019 年に 88,943 人であった。大酒の習慣を女性は週に 8 回以上、男性は 15 回以上と定義した。社会人口統計学的変数のカテゴリーである性別、年齢層、学歴、肌の色、配偶者の有無、世帯所在地 (都市部/農村部) ごとに大酒行動の有病率を推定し、95%信頼区間を算出した。有病率の比較にはポアソン回帰モデルを用いた。</p> <p><b>結果：</b>大酒の有病率は、2013 年 6.1%(3,667 人)から 2019 年には 7.3%(6,479 人)となり、明らかな増加を示した。どちらも大酒の有病率は若年層 (18-29 歳) が最も高く、生涯にわたって減少していく勾配を示した。男性、若年層 (18-29 歳)、低学歴、黒人、独身、都市部に住む人々の間で最も高い有病率を認めた。ポアソン回帰による推定有病率比は、男性、若年成人、低学歴、独身、都市部で最も高かった。本研究の限界としては、対象者人数が多かったが、例えば学歴ごとの高齢者など関心のある変数によるサブ解析ができていないこと、アルコール飲料の種類が特定できないこと等が挙げられた。</p> <p><b>結論：</b>高い有病率は、大酒の習慣をブラジル国民の健康に対するリスク因子として考慮する必要性と、それを減少させるための戦略を早急に講じる緊急性を示している。</p>			